

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4095500015
法人名	社会福祉法人 清浄会
事業所名	「グループホームなびき」
所在地	823-0014 福岡県宮若市下有木 1507-1 (電話) 0949-32-3603

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん
所在地	直方市知古1丁目6番地48号
訪問調査日	平成 20 年 1 月 26 日
評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供項目より】(平成20年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユ
利用定員数計	18 人
職員数	14 人 常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,200 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
			(冬季加算)11月~3月 2,430円	
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含)	無し	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月7日現在)

登録人数	18 男性 3 名	女性 15 名	
要介護1	5	要介護2	5
要介護3	8	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 68 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮田病院・武田歯科・田川慈恵病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯の自然に囲まれたなびきの郷にあるグループホームなびきは、隣接する母体法人(介護老人保健施設・デイケア・在宅介護支援センター・居宅介護支援事業者)の一角にある2ユニットのグループホームである。全職員が一丸となって、東京センター方式によるきめ細かなアセスメントで介護計画を作成し、母体法人の多機能を活用しながら、入居者の日常生活を支援したり、ホーム内に入居者の手作りである四季折々作品を飾ることで、入居者の見当識を促している。管理者は日ごろの関わりから入居者を「可愛くて・愛おしくて・・・」と話しているが、職員も一人ひとりが入居者に愛情を持って接しており、家族から「ほっとしている。」との感想が聞かれることや、入居者同士が和気藹々として笑顔で暮らしていることから、信頼のある関係作りが伺える。母体法人が主催する夏祭り等は年中行事として定着し、地域からボランティアや家族等、500人以上の参加があり、入居者も楽しみにしている。日ごろは近隣から野菜の差し入れがあったり、散歩の時には声かけがあり、非常災害時は協力をお願いしている。また、行政が主催する介護予防事業の一環である介護講習の講師を引き受けたり、地域行事に参加し入居者の作品を出品している。今後は地域の同事業者とも交流を深め、地域密着型サービスの中核事業者として貢献が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を理解し、改善計画シートを作成している。時間の見当識を促す四季をイメージできるカレンダーの作成、入居者や家族への介護計画の説明及び確認印の整備、個別記録の徹底、相談苦情箱の設置、入居者の金銭出納は責任者を明確化して管理している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、作成した改善計画シートに沿って全員で改善の進捗状況を話し合い、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。活動や近況を報告し、委員の意見をホームの運営に反映している。平成20年度は、より地域と密接な繋がりを持つ方に運営推進員をお願いする予定である。行政担当者に自己評価票や外部評価票を提出しているため、運営推進会議でも連携がとりやすい。
重点項目④	日々の暮らしの状況は、毎月発行の便りで伝えている。また、訪問時に写真などで行事報告を行っている。定期健康診断は年2回支援している。入居者の金銭出納は明確に管理され、家族も確認している。入居時には成年後見制度などを含めた人権擁護について説明をしているが、該当者がいないので制度活用の取り組みは無い。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	隣接する母体法人の介護老人保健施設が主催する夏祭りやミニ運動会などには、多くのボランティアを含めた地域の方々の参加があり、盛大に行われている。小・中・高校生や幼稚園児の参加もあり、入居者は楽しみにしている。日ごろから顔馴染みの地域の方から野菜の差し入れがあったり、散歩していると声掛けがある。市主催の行事にも参加し、入居者の作品を出品したり見学に行っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に「利用者が地域において統合的サービス提供を受けることが出来るように努める」と掲げ、日頃より地域に向けた取り組みを実施し、理念を利用者や家族が見やすい所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と週礼や朝礼で理念を唱和し、理念の実践に取り組んでいる。介護理念に沿った介護目標を介護計画に取り入れようと試みている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する母体法人の介護老人保健施設が主催する夏祭りやミニ運動会などには、多くのボランティアを含めた地域の方々の参加があり、盛大に行われている。小・中・高校生や幼稚園児の参加もあり、入居者は楽しみにしている。日ごろから顔馴染みの地域の方から野菜の差し入れがあったり、散歩していると声かけがある。市主催の行事にも参加し、入居者の作品を出品したり見学に行っている。	○	さらに地域との交流を深めるためにも、自治会(隣組)加入や老人会の参加を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解している。自己評価は、作成した改善計画シートに沿って全員で改善の進捗状況を話し合い、管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。活動や近況を報告し、委員の意見をホームの運営に反映している。平成20年度は、より地域と密接な繋がりを持つ方に運営推進員をお願いする予定である。会議の案内文はあるが実施要綱は定められていない。	○	運営推進会議の実施要綱作成や会議録の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価票や自己評価票は行政の高齢福祉課へ提出しているので、行政担当者と話す機会が多くなった。介護予防事業の一環である介護教室に、ホーム職員を講師に派遣している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者や職員は権利擁護に関する研修に参加している。入居時には成年後見制度などを含めた人権擁護について説明をしているが、該当者がいないので制度活用の取り組みは無い。	○	本人・家族に行った説明の記録作成が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしの状況は、毎月発行の便りで伝えている。また、訪問時に写真などで行事報告を行っている。定期健康診断は年2回支援している。入居者の金銭出納は明確に管理され、家族も確認している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に公的機関やホームの意見苦情相談窓口を明記し、意見箱を設置している。ミニ運動会や夏祭りには多くの家族の参加があり、その際の親睦会や運営推進会議で意見を聞いている。	○	ホームへの意見を表出する場だけではなく、家族同士が交流し、認知症の理解や介護への意見交換出来る場として、家族会の設立をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は隣接する介護老人保健施設の代表であるが、時々ホームを訪問し、入居者に声掛けをしている。馴染みの関係の重要性を理解しているので、法人内での職員の異動はない。また、ホーム入所時から退所まで、同じ職員が担当している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用には年齢や性別は問わないが、偏りには配慮している。雇用契約書や服務規程が整備され、職員は休息時間を確保し交代で取る様になっている。採用後の新人教育は能力が発揮できるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は人権研修を受講し、職員と入居者の人権について意見交換している。個人情報の保護や人権に関する資料は整備され、身体拘束防止マニュアル・高齢者虐待防止マニュアルも整備されている。	○	更なる人権教育・啓発活動として、毎年人権研修の企画または所外研修の受講をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、月2回以上はホーム内で研修や介護実習を実施したり外部研修にも参加している。職員の悩みには管理者が対応しているが、スーパーバイザーはいない。メンタルに関する研修は、年1回隣接する介護老人保健施設長である医師を講師として実施している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会など同業者協議会への加入はないが、管理者は地域のグループホームと交流し、情報を交換している。今後は協議会に加入して幅広い情報収集や交流を通して、サービスの向上に努め、地域の中核事業者となるべく努力したいと話している。	○	グループホーム協議会に加入や地域の事業者との連携で情報を収集し、介護の質の向上をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接する介護老人保健施設からの入居者は、情報が得やすく入居はスムーズである。自宅からの入居希望の場合は、通所リハビリを通じて馴染みの関係を作っている。初期対応無しでの入居はないが、その時は本人・家族と十分に話し合い、納得できる関わりでサービスを提供する予定である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の意向に沿った生活が送れるように生活暦等のアセスメントを充分に行っている。職員は家族から「ほっとする。」と言われる対応をしている。入居者から「この人はけんかせんからいいよね、ここがいちばん。」との声が聴かれる。職員も入居者を「いとおしい」「かわゆい」と思うなどお互いに思いやり、支え合う関係作りがある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活暦や趣味・職歴などを把握し、常に入居者の意向などを聞き、入居者本位のサービスに取り組んでいるが、アセスメントの情報が週間計画に活かされていない。	○	把握した入居者の意向、生活のリズムや流れは週間予定表などに記載することで、介護計画に取り入れていただきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスでは入居者がより良く暮らすことを、全職員で検討している。会議録を整備し、介護計画に反映しているが、実施内容に個別性や具体性がない。介護計画に入居者や家族の意向を記載している。	○	介護内容に入居者や家族の要望等や職員の意見やアイデアを取り入れた個別的・具体的な介護計画を作成することで、日々の業務内容と記録が連動するのではないのでしょうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的または要時に見直している。入居者や家族を交えた話し合いはできていないが、カンファレンス前に入居者や家族の意見等を聞き、介護計画を見直している。介護計画は入居者や家族に説明し同意を得ている。	○	家族の意見や要望等に基づき、介護計画を作成したり見直したりするためにも記録の整備が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況、その時々々の要望に応じて通院の送迎や買い物等の早急な本人の要望にも対応している。また、隣接する介護老人保健施設の医療や看護・介護相談等の多機能を活かして、入居者の要望等に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者である看護師が入居者・家族が希望するかかりつけ医への定期的受診や必要に応じた受診に同伴し、日常生活状況について情報を提供したり今後の生活への助言を受けている。医師からの指示や情報は記録し、職員に周知するとともに、家族にも随時医師の指示の変更等は電話や訪問時に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までホームでの看取りはないが、入居者の平均年齢も高いので、管理者や職員は入居者や家族の希望があれば、ホームで看取りたいとの意向がある。可能な限りホームで過ごせるように考えているが、利用者の重度化した場合の取り組みなどは検討中である。	○	重度化や終末期に向けた指針は医療連携の面からも必要と思われるので、早めの整備が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や利用目的を明記した書面を家族・本人に配付し、玄関に掲示している。個人記録などは鍵の掛かる書棚に保管している。職員は入居者を一人の人格者として尊重し、自尊心、羞恥心への配慮した対応をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせた取り組みはない。東京センター方式で情報を収集し、文化的な活動を好む人、身体を動かすのを好む人、それぞれの希望を優先している。日頃より入居者の意向を聞く雰囲気があるので、のんびりとおだやかな日々を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者のアンケートに基づき、食材卸業者の管理栄養士が作成している。職員は声掛けや支援をしながら一緒に食べて、語らいの雰囲気を作っている。入居者は自前のお茶碗や箸を使用している。食事の下ごしらえや下げ膳等は入居者の状況に応じて支援している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を行っているが、失禁時などはその都度どちらかの浴室を利用している。入浴は希望やタイミング及び健康状態に応じていつでも可能である。入浴拒否者には工夫をしながら週2回は支援している。希望があれば夜間入浴も考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道や編み物を好きな人、散歩や草取りを好む人、それぞれの生活歴の中から、役割や楽しみごとを支援している。家族が活力を引き出す物品として粘土・書道具・洋裁箱等を持ち込むこともあり、馴染みの物で安心して自分を出せている入居者もいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は、小グループで喫茶店に行ったり、個別に買い物をしたり、ホーム周辺を散歩している。年間計画に沿った行事で花見や見学に出掛けたりと希望に沿った支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則施錠はしていない。玄関は夜間～早朝までは防犯の為に施錠している。近くの交番に挨拶に行き、警らの時に気にかけて頂くようお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	代表者は災害対策研修に参加している。非常災害マニュアルは整備され、防災訓練は年4回、救命訓練は2回実施してる。隣接する介護老人保健施設の理解や協力で安全が確保されやすく、安心感がある。災害時の備蓄はない。	○	備蓄については、母体施設とも協議し整備されることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が摂取カロリー1500～1600kcalで栄養バランスを考慮した献立を作成している。入居者毎に一日の食事や水分摂取量を把握し、疾病のある入居者には主治医から摂取カロリー等の指示を受けたり、入居者の嗜好や嚥下状態に応じて食材や調理方法を工夫している。月2回の体重測定で健康管理に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットのそれぞれの玄関が中央にあり、お正月には門松を飾ったり、漬物樽が置いてあったり、観葉植物や季節の野菜等置かれたりと、季節感のある玄関である。玄関を入ると居間である共用空間が広がっている。ユニットの仕切りは開閉できる引き戸のため、入居者が自由に行き来し、コミュニケーション作りと運動量の確保に役立っている。テレビの音や調理音などは音量に配慮している。居室の消臭に配慮し、臭いがホールに影響しないようにしている。天窓のある食堂兼居間は昼間はくつろぎの場であり、テーブルには個人名やイラストで居場所がわかりやすく工夫されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使用していた生活用品の持込み、各入居者の生活様式に応じてベッドばかりでなく畳が置かれた居室もある。定期的な換気で匂いもなく、窓からは田園風景が見られ、春には居ながらにしてホーム周辺に植えられた桜見物が出来ると好評である。		